

敵討嫁威谷傳

八

遠心
1299
8



部討嫁威を傳卷八

但州湯嶋書屋

但州湯嶋書屋



部討嫁威を傳

卷八



目録



一向井法平が女房平産の事

并百竹文太夫の屏風物語の事

一保坂一守刀を振る事

并長崎守忠孝の古き事

源氏物語公傳

卷之八

源平女房平家之事

并百位女房の屏風物語の事

けさの平家源平の事と藤原家源平の事
引くは平家源平の事と藤原家の事
子孫の事と藤原家の事
切通の事と藤原家の事

子癩^{こいぼ}たりとんく^{とんく}と^との^のは^はす^する^る物^{もの}と
知^ちら^らず^ずと^とは^はら^らぬ^ぬの^のま^まに^にの^のま^ま
は^はら^らぬ^ぬの^のま^まに^にの^のま^ま
ハ^ハ有^有る^ると^とも^もん^んの^のま^まに^にの^のま^ま
は^はら^らぬ^ぬの^のま^まに^にの^のま^ま
何^{なに}と^とせ^せよ^よと^とも^もん^んの^のま^まに^にの^のま^ま
何^{なに}と^とせ^せよ^よと^とも^もん^んの^のま^まに^にの^のま^ま
何^{なに}と^とせ^せよ^よと^とも^もん^んの^のま^まに^にの^のま^ま
何^{なに}と^とせ^せよ^よと^とも^もん^んの^のま^まに^にの^のま^ま

子癩^{こいぼ}たりとんく^{とんく}と^との^のは^はす^する^る物^{もの}と
知^ちら^らず^ずと^とは^はら^らぬ^ぬの^のま^まに^にの^のま^ま
は^はら^らぬ^ぬの^のま^まに^にの^のま^ま
ハ^ハ有^有る^ると^とも^もん^んの^のま^まに^にの^のま^ま
は^はら^らぬ^ぬの^のま^まに^にの^のま^ま
何^{なに}と^とせ^せよ^よと^とも^もん^んの^のま^まに^にの^のま^ま
何^{なに}と^とせ^せよ^よと^とも^もん^んの^のま^まに^にの^のま^ま
何^{なに}と^とせ^せよ^よと^とも^もん^んの^のま^まに^にの^のま^ま
何^{なに}と^とせ^せよ^よと^とも^もん^んの^のま^まに^にの^のま^ま

是れを以て通つる所にして其の事は
是れを以て通つる所にして其の事は
是れを以て通つる所にして其の事は
是れを以て通つる所にして其の事は
是れを以て通つる所にして其の事は
是れを以て通つる所にして其の事は
是れを以て通つる所にして其の事は
是れを以て通つる所にして其の事は
是れを以て通つる所にして其の事は
是れを以て通つる所にして其の事は

保坂一学務のおとせの事
并に是れを以て通つる所にして其の事は
是れを以て通つる所にして其の事は
是れを以て通つる所にして其の事は

を引り行を流を末とつりつもの有り是
を金匠に勿論道々を立み里十里を
ておろくあきるひを引り大層寺の
お中にも易く出入りする保坂一学
らさやこころしくと福を仕る者なり
不く去城は是等の子統子孫科
を引り多んと竹を流を末とつりつ
あーらくと中身なりは折り一幸を流を

目行を削く竹一学が刀柄子さくんじ
あり是を末とつりつと折りつ
を引り多んと竹を流を末とつりつ
は引り多んと竹を流を末とつりつ
保坂一学折りつと折りつと折りつ
るり多んと折りつと折りつと折りつ
てを引り多んと折りつと折りつと折りつ
れ也道り多んと折りつと折りつと折りつ



目録

卷一
卷二
卷三
卷四
卷五
卷六
卷七
卷八
卷九
卷十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十

四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十

六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十

七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十

八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十

九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

